

公約、8つの挑戦・施策

修学支援資金
給付型への見直しは

つぶやき

今回は空洞化する
商店街の再成を
聞きたい



答

考えていない
減免、補助を検討



質問者の動画が
視聴できます。

やぎ
八木

ふみと
史 議員

問
八木議員

町長選挙で8つの挑戦・施策に取り組みと訴えてきたが、今回は次の3つの具体的な取組を伺う。

①「子ども中心のまちづくりへの挑戦」

(1) 深浦町高等教育修学支援資金を一定条件のもと、貸与型から給付型へ見直すのか。

(2) 遊び場の整備とは。

②「障がい者・ひきこもり対策への挑戦」

どの部署で担当し、どの様に進めていくのか。

③「定住・移住・空き家対策促進への挑戦」

プロジェクトチームを立ち上げ、地域の活性化を図るとのことだが、具体的な取組は。

答
町長

①条件設定や採択基準を含めた平等性の確保が課題となるので、給付型の導入は、考えていない。なお、人口減少対策や若者定住促進の施策として、町への居住などの一定条件のもとで、償還金を減免、あるいは、償還金を補助

するなど、他の自治体の導入状況等を踏まえ検討していきたい。

令和7年度にスタートする（仮称）深浦町生涯学習センター整備（旧木造高校深浦校舎利活用）で、子供たちの遊び場を整備したい。更にエリア内には、子育て世帯が交流できるベンチや休憩スペースを設けたい。



②事務は、福祉課が担当。二

ーズ調査を基に、個人個人の障がいの程度等に配慮し、社会とつながりを持てるような事業を展開していきたい。

③地域住民や専門家、行政職員などをメンバーにした

政策実現のプロセス

組織再編等が

必要では

『7年度は調査・検討
8年度に組織再編したい』

問
八木議員

町長が推進しようとする政策をスピード感をもって実現するためには組織機構の再編、刷新が必要と思われるが、新年度に向けて実施するのか。

答
町長

令和7年度に政策テーマごとに必要な調査や検討、関係機関との協議・調整を行った。令和7年4月の組織再編

わが町のここが聞きたい

は予定していないが、令和8年度には、組織再編を提案したい。

障害者雇用促進

障害者雇用2・8%
今後の採用計画は

『法定雇用率2・17%
募集等に取り組む』

問 八木議員

障害者雇用促進法で、地方公共団体の法定雇用率は2・8パーセントだが、現在の深浦町における障害者雇用的人数は、今後の採用計画は。

答 町長

本町の障害者雇用者数は、実数で4人、障害の程度を勘案した調整値は5人、職員総数に対する雇用率は2・17パーセント。
法定雇用率の2・8パーセントを達成するためには、現状プラス1・44人、合わせて6・44人の障害者を雇用する必要がある。今後の採用計画としては、会計年度任用職員等の障害者枠での募集活動を行うとともに、障害者就業・生



活支援センターから、就労希望者情報を得るなど、法定雇用率の達成に取り組んでいく。

地方創生への取組

地方創生2・0
具体的な取組は

『総合的かつ戦略的な
アプローチで取り組む』

問 八木議員

広報ふかうら1月号に「国が掲げる方針を的確に把握し、深浦町にふさわしい地方創生の取組に果敢に挑戦して行く」新たな地方創生（「地方創生2・0」）と町長が述べられているが、まず何から手を付

けていくのか。

答 町長

地方創生2・0は、地域の活性化を超え、日本全体の活力を取り戻すための重要な政策で、私たち深浦町においてもその意義は非常に大きい。しかしながら、財源の確保や人材不足、地域住民の意識改革など、多くの課題が存在する。

まず、財源の確保については、地方創生に向けた施策を進めるには、国や県からの支援が不可欠。地方創生関連の補助金や助成金を積極的に活用し、地域の特性に適応したプロジェクトを提案していく。人材不足には、地域内での人材育成プログラムを充実させることが必要。若者や女性が働きやすい環境を整備し、地域での就業機会を増やすための施策を講じることが重要。更に、地域外からの人材誘致や移住促進施策により、新たな人材を地域に呼び込むことが期待できる。

地域住民の意識改革には、地域全体での情報共有と参加型の取組が鍵となる。地域住民が自らの地域に誇りを持ち、

積極的に関与するためには、地域イベントやワークショップを通じて意見交換やアイデアを出し合う場を設けることが効果的だと考えられる。このような視点から、本町としては総合的かつ戦略的なアプローチで地方創生2・0に取り組んでいく。



※地方創生2・0の「基本的な考え」

インバウンド

今冬のインバウンド
冬の十二湖の状況は

『来季、モンベル社と
イベント開催へ』

問 八木議員

今冬のインバウンドに対する十二湖観光の取組状況等は。

答 町長

冬期限定の十二湖を地元力イドと歩く「十二湖スノーハイク」を実施した。12月から

2月末までで、33人の外国人の参加があった。また、イグルー体験、いわゆるかまくら製作の体験も実施したが、外国人の参加は無かった。
来季に向けて現在、アウトドア用品メーカーのモンベル社と、十二湖でのスノーシューハイキングの開催について協議を進めている。

